# 釧新郷土芸術賞に輝く

## 受賞者の横顔

▷下◁

# 普及にたゆまぬ貢献

## 郷土に根ざした創作活動

### 名取弟子も28人

「舞台に花を…」「理解できる日本舞踊を…」を目指して、ひたすら踊り人生を歩んで来た花柳寿登芳さんは今回の受賞の知らせに、ただ一言「がん張ります」とだけ語る。十月に「四季の舞六種」を発表したが、全曲、寿登芳さんの新しい振り付けと舞台構成、市民を感嘆させたのは、記憶に新しいところ。「来年も再来年も生命の続く限りは踊ります」と情熱の炎を見つめている。

寿登芳さんは釧路市出身。やっと物心がついた頃から、日本舞踊を習い始め、三十年に教授資格を取得し、けい古場を開くかたわら、後進の養成にも心がける。いまでは寿芳桂、寿芳久、寿芳久仁、寿芳釧、寿芳雛、寿芳山永さんなど二十八人の名取弟子を誕生させた。創作活動も目ざましく、三十三年には「紅鶴鏡」を来釧した秩父宮妃殿下に披露。そのあと「岩鶴」を全日本空手選手権大会のアトラクションとして日本武道館で発表、「丹頂の舞」「悪魔払いリムセ」「昆布森タコ踊り」など続々と作り出し、四十七年には「合唱と日舞のための幻想曲」で釧路混声合唱団と共演、さらに琴と鼓楽による「流氷」も発表している。

□日本舞踊□
**花柳寿登芳さん（六一）**
（釧路市黒金町一〇の四）

日本舞踊の良さを一人でも多くの人にと
寿登芳さん

### 一人でも多くの人に理解を

五十年には花柳流家元花柳寿輔氏を迎えて古典舞踊を発表し、この年釧路市文化奨励賞を受賞している。五十一年には阿寒湖ユーカラ座とパリ公演し、アイヌの伝統舞踊で世界の人々の目を見張らせ、五十七年には現代音楽、三木稔作曲の巨火「風土樹海」を振り付け発表した。

五十七年に北海道文化団体協議会から文団協賞を受け、その創造性と芸術性は高く評価された。「ジャズにでも洋楽にでも振り付けします。日本舞踊が今の若い人にも、一人でも多くの人に理解されることを願っています。それに素晴らしい邦楽の良さも分かってほしい」と、芸の神髄に迫ろうとする意欲と努力をからだいっぱいにみなぎらせている。大正十二年六月生まれ、家族は亡き娘の寿芳貴さんの遺児、果林ちゃんと二人暮らし。本名、中村芳子。